

名城大学FD委員会

Meijo FD NEWS

Meijo University Faculty Development News

創刊号

Vol.1

2003.11

より良い
教育環境をめざし、
FD再構築！

- ◆ 学長&委員長メッセージ
- ◆ FDを知る
- ◆ 平成15年度 名城大学 FD委員会の紹介
- ◆ 「学生による授業評価アンケート」
- ◆ 【授業参観／同僚に学ぶ】
- ◆ 研修報告（大学教育学会・京都大学公開実験授業）
- ◆ TOPICS（中日新聞掲載）・推薦図書紹介

い
挨拶学 長
兼 松 顯FD活動を通して、
教育改革の一層前進を。

名城大学の教育改革に向けて

名城大学のFD活動は、学生による授業評価アンケート、FD講演会、今年度実施を予定している【授業参観／同僚に学ぶ】、マークカードリーダー式【学生による授業改善アンケート】の実施とともに、先生方の日々の努力をあわせ、たえず教育に対して改善を行ってきた。

この中で、学生による授業評価においては、平成12年度通年・後期科目から実施し、平成13年度前期科目、平成14年度通年・後期科目、平成15年度前期科目と継続して実施している。

特に、平成14年度通年・後期科目からは、名城方式ともいえる分析方法によって、授業のどこが弱点で、どこを改善すればよいかを的確に示した分析方法を用い、授業改善のための明確なフィードバックを実施した結果、改善ポイントに留意しながら日々の授業改善が進められているとの声も伝え聞くようになった。

また、このフィードバック方法は、週刊東洋経済の「本当に強い大学」の特集の中で、教育向上策としてユニークな特色を出している大学として紹介されている。(2003.10.11 p46)

これらのFD活動を通して、学生側が、学ぶ意欲を高め、授業に対して目的意識を持つことができるような名城大学の真の教育改革が、今後一層前進することを切に願っている。

FDにおける
オンリーワンをめざして。FD委員会委員長
副 学 長
原 彰

FD活動のさらなる進化を

平成12年度に報告された「FD活動の現状」において、FD推進会議議長の杉下先生の挨拶には「今回のアンケートでは99%以上の教員の協力が得られた。これはこれからの審議と改善に明るい見通しを与えるものであり、本学の組織的FD改革としては輝ける第一歩として記録されると思う」と記されている。それ以来、名城大学のFD活動は関係者の努力により、毎年のように進化を遂げてきた。その結果、河合塾が平成15年7月にまとめた「学生による授業評価」事例研究会報告書では、「学生による授業評価について実績があり、内容的にも他大学の参考にされている大学」、14大学の1つに名城大学が名を連ねるに至った。そこでは、授業評価が備えておくべき要件を「グッド授業評価モデル」として、各大学の評価を行っているが、名城大学は第3位となっている。FD活動は来るべき第三者評価の根幹を担うことに成ると考えられる。学長の「全国私立大学の中でのトップ10を目指す」という政策を実現すべく、FDにおけるオンリーワンの地位を勝ちとるよう、FDのさらなる進化を目指すことを宣言させていただきたい。

FD^{aculty}を^{development}知る

ファカルティ ディベロップメント (FD) について…

大学教育の営みの
専門性を高める
あらゆる活動を総合する
コンセプトです。



1 はじめに——FDとは何か

Faculty Development (大学教授団の資質開発)、略してFD。

FDという言葉が日本の大学に注目されるようになって、すでに10年以上が経過しました。大学教員にFDが必要であるという考えは、旧来の大学観にはありませんでした。したがってFDを導入することは大学の変貌を意味しています。

一般に、FDとは、大学における教員の諸活動を真に意味あるものにするための組織体的支援活動を総括する概念です。したがって、FDとは、「個々の大学教員が所属大学における種々の義務(教育、研究、管理、社会奉仕等)を達成するために必要な専門的能力を維持し、改善するためのあらゆる方策や活動(B.C.Mathis)」であり、大学教育の営みの専門性を高めるあらゆる活動を総合するコンセプトです。(1)

2 我々はどう対処すべきか——FDとして何ができるか

大学教育の改善は、大学そのもの、そして、教員の意識改革なしには行われません。教員が学生に対して働きかける作用は複雑多様です。教員の教育機能は教員自らが考えていなかったところに存在することもあり、教員自身のねらいと異なった方向に向けての作用を及ぼしていることもあります。(1)

教育とは、往々にして「教」のみが強調され、知識を教えることだけであると解釈されがちです。学生の能力を育てる「育」こそが、現在の学生教育において求められている重要な点であり、教員の意識改革において、このことを認識することが極めて重要であると言えます。「興味・関心の育成」から、「知識の伝授」、さらに、「知識の思考と応用」によって学生が考える力を養い、最終的に未知の分野や夢に挑戦する力を育てる教育、すなわち、学生の潜在的な能力を引き出して育てる教育が最も重要であると考えられます。

今、この「学生の心に火をともし教員」を育成するためのFDが求められています。(2)

引用文献 (1) (財) 大学セミナーハウス編、『大学力を創る・FDハンドブック』1999年3月31日

(2) 日本私立大学協会大学教務研究委員会「多様化する学生に対応した教育改革」(研究中間まとめ) 平成15年10月8日

より良い教育環境をめざして

[名城大学 FD委員会の紹介]
平成15年度

FD委員会

任 務

1. 本学の教育内容および教育環境の改善に関すること
2. 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること
3. 単位制度の機能化を図るための具体的活動に関すること
4. 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること
5. 教員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること
6. 教育優秀教員の表彰に関すること
7. その他委員会が必要とすること

FD講演会 チーム

- ・講演会講師の選定および実施にかかる検討
(年2~3回開催予定)
- ・次年度以降に向け、国際シンポジウム開催などの検討・準備
- ・FDニュースの発刊
(平成15年度は年2回の予定)

授業参観・ 公開授業 チーム

- ・京都大学の公開授業などへの研修および実施にかかる検討
- ・FDニュースの発刊
(平成15年度は年2回の予定)

学生による 授業評価アンケート チーム

- ・平成15年度 前期・通年・後期科目における実施および、平成14年度のデータ分析とともに、アンケート後の組織的な教育システム・授業改善方法の研究
- ・FDニュースの発刊
(平成15年度は年2回の予定)

教育優秀教員 表彰検討 チーム

- ・教育優秀教員の表彰の検討
- ・FDニュースの発刊
(平成15年度は年2回の予定)

その他

- ・その他適宜必要事項について検討・実施

名城大学 学内FD講演会

第4回

「大学力を創るFD」

～学生による授業評価アンケートから授業をどう変えるか～

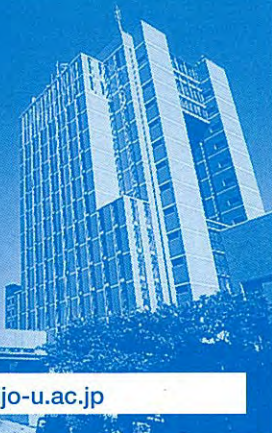
平成15年11月13日(木) 午後16時～17時30分

講師:池田輝政氏(名古屋大学 高等教育研究センター教授)

場所:天白キャンパス 11号館 504号

対象:教育職員、大学院生、事務職員

問い合わせ先 大学教育開発センター内線/2653 E-mail/edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp



○よりよい授業を進めていくために…

平成15年度 前期科目「学生による授業評価アンケート」

実施期間：平成15年6月30日(月)～7月12日(土)

FD委員会では、大学の教育・授業を考え、より良くするための改善を行っています。
今回はその資料として、平成15年6月30日から2週間、学生にマークシート方式で「授業評価」のアンケートを実施した結果を各学部ごとに下記にまとめました。

■平成15年度 前期科目 学生による授業評価アンケート実施状況

開講学部	専任・非常勤	実施対象科目	実施科目	未実施科目	実施率
全 学	専任	842	824	18	97.9%
	非常勤	724	714	10	98.6%
	計	1,566	1,538	28	98.2%
法 学 部	専任	80	77	3	96.3%
	非常勤	138	133	5	96.4%
	計	218	210	8	96.3%
経 営 学 部	専任	80	69	11	86.3%
	非常勤	121	120	1	99.2%
	計	201	189	12	94.0%
経 済 学 部	専任	37	36	1	97.3%
	非常勤	60	60	0	100.0%
	計	97	96	1	99.0%
理 工 学 部	専任	438	435	3	99.3%
	非常勤	292	289	3	99.0%
	計	730	724	6	99.2%
農 学 部	専任	62	62	0	100.0%
	非常勤	47	47	0	100.0%
	計	109	109	0	100.0%
薬 学 部	専任	88	88	0	100.0%
	非常勤	33	33	0	100.0%
	計	121	121	0	100.0%
都市情報学部	専任	2	2	0	100.0%
	非常勤	2	2	0	100.0%
	計	4	4	0	100.0%
人 間 学 部	専任	19	19	0	100.0%
	非常勤	5	5	0	100.0%
	計	24	24	0	100.0%
短期大学部	専任	10	10	0	100.0%
	非常勤	9	9	0	100.0%
	計	19	19	0	100.0%
教 職 課 程	専任	26	26	0	100.0%
	非常勤	19	18	1	94.7%
	計	45	44	1	97.6%

■専任・非常勤別 アンケート実施率比較



■学部別総合満足指標の平均と標準偏差 (過去年度比較)

学部	平成14年度 通年・後期						平成15年度 前期							
	回答者全員			意欲的 学生			回答者全員				意欲的 学生			
	科目数	平均	標準偏差	科目数	平均	標準偏差	科目数	平均	平均前年比	標準偏差	科目数	平均	平均前年比	標準偏差
全 学	1,466	66.6	13.9	1,460	75.8	13.4	1,503	64.7	-1.8	13.9	1,499	73.5	-2.3	13.4
法 学 部	214	73.0	13.3	212	81.8	13.6	205	70.3	-2.7	12.3	205	78.9	-2.2	11.6
経 営 学 部	162	72.2	12.2	162	80.3	12.3	182	68.7	-3.5	13.8	182	75.9	-4.4	13.6
経 済 学 部	107	69.6	11.7	106	80.4	11.2	93	67.3	-2.4	13.6	93	75.1	-5.3	11.4
理 工 学 部	601	62.9	14.3	601	72.0	14.0	708	62.6	-0.3	14.1	705	71.2	-0.8	13.8
農 学 部	98	64.4	12.0	97	75.3	10.5	109	61.5	-2.8	12.8	108	72.5	-2.8	14.2
薬 学 部	94	58.8	12.1	94	72.9	11.1	120	62.4	3.6	13.9	120	73.8	0.9	12.2
都市情報学部	70	68.2	9.5	70	76.5	8.4	2	65.6	-2.5	7.1	2	75.3	-1.2	5.2
人 間 学 部							24	67.1		12.0	24	74.5		10.9
短期大学部	70	70.4	13.6	69	76.2	12.6	17	66.0	-4.4	11.0	17	75.7	-0.6	10.6
教 職 課 程	35	66.5	13.4	34	76.0	14.2	43	64.1	-2.4	13.9	43	72.8	-3.2	11.9

※意欲的学生の定義 欠席回数が2回(通年は4回)以下で、かつ①予習・復習・レポートなど積極的に学習努力をした。②授業中は、集中して教員の話や説明を聞いた。①②の両方で、「強くそう思う」か「ややそう思う」と回答した学生を意欲的の学生と定義しております。

お知らせ 平成14年度通年・後期科目および平成15年度通年・後期科目の「学生による授業評価アンケート」結果の比較について

- 平成15年度通年・後期科目「学生による授業評価アンケート」は12月8日(月)から12月20日(土)に実施する予定です。
- 平成15年度通年・後期科目「学生による授業評価アンケート」では、昨年度実施いたしました平成14年度通年・後期科目の結果と比較する形で、先生方にフィードバックする予定です。

つきましては、平成15年度通年・後期科目の授業にあたりましては、平成14年度通年・後期科目の先生の分析結果および、先生からご提出いただいたコメントを充分に見直していただき、一層の授業改善に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

※なお、平成14年度通年・後期科目の報告書は、附属図書館をはじめ、各学部事務室、資料室、非常勤講師室、学務センター、大学教育開発センター等でも閲覧できるようになっております。

平成15年度
Program 【授業参観／同僚に学ぶ】
 実施期間：平成15年10月29日(水)～12月1日(月)

- 趣 旨** ●同僚の授業を参観することにより互いに学びあい、また、自ら学生と同じ視点から授業を客観的に振り返ることにより、教授技能を磨くヒントを得る。
- 参 観 者** ●本学職員、非常勤講師、大学院生

平成15年度 後期科目プログラム

連番	実施日	時限	所属学部	教 員 名	開講学部	授業科目名	キャンパス名	号 館	教 室	履修者数
1	10/29(水)	4	理工学部	杉下 潤二	理工学部	機能性複合材料	天白	2	316講義室	96
2	11/ 5(水)	4	人間学部	稲垣 行一郎	経営・経済学部 (教職課程)	総合演習	天白	共通講義棟	506講義室	22
3	11/ 6(木)	1	人間学部	メアリー・野口	人間学部	ベーシック・イングリッシュⅡ	天白	共通講義棟	506講義室	32
4	11/ 7(金)	1	理工学部	板橋 一雄	理工学部	地盤力学Ⅱ	天白	11	117講義室	92
5	11/10(月)	1	法学部	海老澤 俊郎	法学部	行政法Ⅰ	天白	共通講義棟	102講義室	272
6	11/10(月)	1	薬学部	金田 典雄	薬学部	分子生物学Ⅱ	八事	6	62講義室	144
7	11/10(月)	3	理工学部	清水 教之	理工学部	物性基礎論Ⅱ	天白	2	410講義室	110
8	11/10(月)	4	理工学部	天野 浩	理工学部	半導体工学	天白	2	316講義室	88
9	11/10(月)	4	経済学部	勝浦 正樹	経営・経済学部	統計学Ⅱ	天白	共通講義棟	103講義室	377
10	11/10(月)	4	薬学部	亀井 鏖	薬学部	機能形態学	八事	3	321講義室	124
11	11/17(月)	1	経済学部	伊藤 志のぶ	経済学部	ミクロ経済学入門	天白	4	429講義室	311
12	11/17(月)	3	理工学部	服部 友一	理工学部	材料統計学Ⅱ	天白	2	414講義室	94
13	11/17(月)	4	教職センター	平山 勉	短期大学部	マルチメディア演習	天白	タワー75	602情報処理教室	27
14	11/17(月)	4	理工学部	都竹 愛一郎	理工学部	情報理論	天白	2	410講義室	103
15	11/17(月)	4	薬学部	中澤 清	薬学部	放射薬品化学	八事	6	61講義室	137
16	11/18(火)	1	理工学部	上山 智	理工学部	半導体工学	天白	2	408講義室	160
17	11/18(火)	4	理工学部	長澤 崇雄	理工学部	ドイツ語Ⅳ	天白	11	502講義室	25
18	11/18(火)	4	薬学部	岡本 浩一	薬学部	物理学Ⅱ	八事	5	53講義室	121
19	11/19(水)	4	理工学部	楊 剣鳴	理工学部	システムコントロールⅡ	天白	2	409講義室	121
20	11/20(木)	4	理工学部	三浦 彩子	理工学部	日本建築史	天白	11	116講義室	76
21	11/21(金)	1	理工学部	山ノ井 基臣	理工学部	制御工学Ⅲ	天白	2	410講義室	140
22	11/21(金)	1	都市情報学部	牛嶋 正	都市情報学部	都市経営論	可児	3	3201講義室	110
23	11/21(金)	1	経営学部	大西 幹弘	経営学部	情報産業組織論	天白	共通講義棟	103講義室	322
24	11/25(火)	3	理工学部	河村 英昭	理工学部	エネルギー変換工学	天白	2	410講義室	109
25	11/25(火)	4	理工学部	岩谷 素顕	理工学部	電気回路理論	天白	11	116講義室	125
26	12/ 1(月)	1	人間学部	P.S.ビーチ	人間学部	ベーシック・イングリッシュⅡ	天白	共通講義棟	503講義室	32
27	12/ 1(月)	3	総合学術研究科	塩入 孝之	農学部	化学	天白	5	218講義室	129
28	12/ 1(月)	4	理工学部	畔柳 武司	理工学部	西洋建築史	天白	4	214講義室	154

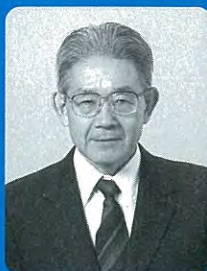
- 実 施 方 法**
- 参観希望の方は、予約表にご記入いただき、授業日の3日前までに、学部事務室、もしくは、大学教育開発センター(本部棟3階)まで学内便等でご提出をお願い致します。また、当日は授業開始時間までに、プログラム記載の講義室までお越しください。
 - この授業参観は、模範授業の参観ではありません。授業者・参観者ともに教授能力を磨くために実施するものであり、互いに学びあい、参考とするものです。

- 授業検討会について**
- 授業参観後は、簡単な授業検討会(1時間程度)を実施いたしますので、併せてご出席をお願い致します。
 - 授業検討会では、授業担当者を囲んでのフリートーキングを予定しております。簡単な授業検討会ですが、心得として、2つの約束(①相手を思いやる ②授業改善のためのアイデアを気軽に出す)を設けております。

*ご不明な点等ございましたら、お気軽に大学教育開発センター近藤(内線2653)までご連絡ください。

平成15年6月7日(土)・8日(日)に大阪薬科大学にて開催されました「大学教育学会」と、平成15年6月16日(月)に行われた「京都大学公開実験授業」の研修の内容・感想を3人の参加者から報告いただきました。

1. 大学教育学会



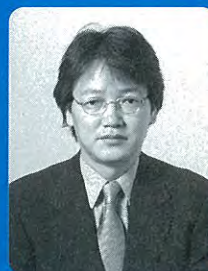
チョット 隣の庭を覗いて みたかったのだ!

薬学部教授 西田 幹夫

名だたる教育界のプロの学会だから、キット大きなカルチャーショックで頭を殴られると、恐る々々会場受付を通過した。話が解るかな?と一抹の不安を抱きながら、取り敢えず目星を付けた分科会場「FD・授業評価」へ滑り込んで着席した。

ヤッ! 第一演者のタイトル「FD問題のアプローチ(6)…」、もう6回もシリーズで? ウーム、とすれば、7~8年前から始めている。吾が名城は、今、偵察隊が来たのでは大分差がついてるゾ とショックを感じた。さて、次々と登壇するFD先生達のプレゼンテーションは、発表時間オーバー、スライド詰め過ぎ、ハイ!次とスキップする。エー これFD先生達なの?!

学生達は解るのかなと仰天した。隣も覗いてみるべきですね。



授業評価から 授業効果の時代

経済学部助教授 井内 尚樹

現在、本学では年に二回授業評価アンケートが行われているが、講義改善の進んでいる大学では、講義を行った結果を評価するのではなく、講義のプロセスを重視しているようである。プロセス重視とは、毎回の講義でアンケートを行い、学生に対して講義が効果的になっているのか調査しながら、教員と学生が双方向で講義を進めていくことである。具体的には、「講義があまり理解できていない」場合、原因(受講登録単位数が多すぎる、修得単位数・成績評価など)を調査し、一人ひとりの学生に対策を提案するというものである。

講義を効果的に展開していくためには、カリキュラム、講義の受講者数、受講単位数の制限など教学改革が連動している必要がある。

2. 京都大学公開実験授業



目にみえないもの — 京都大学公開実験授業に参加して —

理工学部教授 齊藤 公明

京都大学高等教育研究開発推進センターにおいて、田中教授に現状の詳細を伺い、松下助教授による公開実験授業に参加させて頂いた。授業は、テーマ「学力低下問題は重要か」に関する議論のあり方、検討方法などを含め、教員の立場から導入説明があり、その後、4つの班に分かれ、議論・検討・次回プレゼンテーションへの班としてのまとめまでを行うという方針で実施された。各班には院生がオブザーバーとして加わり、一つの班に私も参加し、議論・検討の進捗を伺わせて頂いた。現在は混乱の経済の中にあり、一生懸命努力した結果が直ぐには目にみえて満足できるものにならない状況にある。それゆえ逆に、直ぐに結果を求める風潮にある。目にみえて結果が出なくても、決して

報われていないわけではなく、各自の内部にパワーとなって蓄積され、いつかは芽の出るときが来る。混沌のなかに生きている学生達がどのような議論をするか、何を求めているかを少しでも知ることが出来ればと思いながら参加させて頂いた。学部間を超えた共通のテーマを与え、それに対して学生のみでなく、教員も参加し議論する。そこから新しい発想に繋がるヒントが得られるのかもしれない。私の参加した班の様子、授業後の検討会での他班からの報告を伺い、何かしら目にみえない力を学生達に感じ、もう少し彼等と深く議論が出来ればと思った次第である。お世話になりました先生方に深く感謝申し上げます。

TOPICS

NewsPaper

〈平成15年7月29日 中日新聞〉

● 中日新聞〔平成15年7月29日（火）発行〕において本学の「CS分析」による授業評価紹介記事が掲載されました。

授業に関するマークシート方式のアンケート用紙に記入する学生たち
「名古屋大学」の名古屋市天白区の名城大で



満足度集計し要求度算出

授業評価にCS分析

名城大

し、本年度か

いう。昨年導入
のかがつかみ
にくかったと
善すればいい
をどれだけ改
制も考えたい
と話している。
松本助教は「今
は平均だ分析に
時間がかかって
いるが、今後は
学生の評価に
即応できるよ
うな体制も考
えたい」と話
している。

た。松本助教は「今
は平均だ分析に
時間がかかって
いるが、今後は
学生の評価に
即応できるよ
うな体制も考
えたい」と話
している。

名城大（名古屋市中白
区）は、民間企業で顧客
満足度を測るために用い
る「CS分析」を、学生
による授業評価に導入し
た。東海三県の大学では
初めてという。
分析を担当した同大理
工学部の松本幸助教は
「学生のニーズを知る
のは大切なこと。教える
側の意識改革に役立てた
い」と話している。
同大は二〇〇〇年度か
ら学生による授業評価を
実施。授業中の話し方、
私語への対応などの各項
目について五段階評価で
答えてもら
い、その数値
の平均をレ
ダーチャー
トで示してい
た。松本助教は「今
は平均だ分析に
時間がかかって
いるが、今後は
学生の評価に
即応できるよ
うな体制も考
えたい」と話
している。

推薦図書紹介

「教授が変われば大学は変わる」 出版社:毎日新聞社 著者:岩田年浩

本書は、筆者の調査と経験から大学改革の根本は教育の現場そのものにあるとし、
自らの体験とさまざまな工夫を凝らしている全国36人の名物教授の授業を通して、
大学改革のあり方を探った一書です。

発刊年月:2000年11月
総ページ数:223ページ



「ガイドブック 大学授業の改善」 出版社:有斐閣 著者:伊藤秀子・大塚雄作 編

学習の活性化はいかにしたら図れるのか、多様なメディアをどう活用するのか、授業評価をどう活用す
るのかなど40人の執筆者が大学の授業改善にとって大切なポイントを解き明かした参考書です。

発刊年月:1999年5月
総ページ数:279ページ



名城大学FD委員会広報誌 — 創刊号

Meijo FD NEWS

発行日 平成15年11月7日

発行者 名城大学 大学教育開発センター

〒468-8502 名古屋市中白区塩釜口1-501 TEL. (052) 832-1151 (代)

ホームページ <http://www.meijo-u.ac.jp/> Eメール edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp

編集協力 (株)進研アド 名古屋支社



この印刷物は、古紙配合率100%再生紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しております。